

福山平成大学



公開講座

2025年問題を考える

第1講座 9月13日 (木)

高齢期に安心して
住み続けられる住まいとは
岡部 真智子 准教授
(福祉学科)

第2講座 9月20日 (木)

地域マネジメントにおける
マーケティング思考の可能性
渡邊 正樹 講師
(経営学科)

第3講座 9月27日 (木)

「2025年問題」との
付き合い方
西川 京子 准教授
(こども学科)

第4講座 10月4日 (木)

スポーツと“Ikigai”
- 2025年を受け入れる -
河野 洋 講師
(健康スポーツ科学科)

第5講座 10月11日 (木)

人生100年時代を見据えた
健康づくり
長野 扶佐美 准教授
(看護学科)

平成30年9月13日 (木) ~ 10月11日 (木)

福山平成大学7号館大講義室

午後6時30分~午後8時00分

申込期間：平成30年8月1日 (水) ~ 9月7日 (金)

申込方法：別紙の受講申込ハガキに所要事項を記入の上、郵送または持参

受講料：無料

定員：250人

5講座中、4講座以上の受講者に受講証書を授与

問い合わせ先：庶務課

〒720-0001 広島県福山市御幸町上岩成正戸1 1 7 - 1

電話：084-972-5001

ファックス：084-972-7771

主催：福山平成大学

後援：福山市

福山市教育委員会



2025 年問題を考える

2025 年というのは、団塊の世代が 75 歳を超える年を指します。

今後の日本が高齢化に対応するために考え出されるさまざまな問題を、各講師が考え、提言します。福祉学科の岡部准教授から「高齢期に安心して住み続けられる住まいとは」、経営学科の渡邊講師から「地域マネジメントにおけるマーケティング思考の可能性」、こども学科の西川准教授から「2025 年問題」との付き合い方」、健康スポーツ科学学科の河野講師から「スポーツと“Ikigai”-2025 年を受け入れる-」、看護学科の長野准教授から「人生 100 年時代を見据えた健康づくり」を計画しました。

第 1 回 9 月 13 日 (木) 高齢期に安心して住み続けられる住まいとは 岡部 真智子 准教授 (福祉学科)

2025 年は、高齢者世帯の 7 割が単身・夫婦のみ世帯となると予想されています。人口減少に伴う過疎化や空き家の増加といった地域が抱える問題も人の住生活に影響を及ぼします。加齢に伴う体力低下や持病、介護と付き合いながら、安心して暮らしていくためには、今の住まいをどう工夫するのか、またどのような住まいを選べばよいのか、今から知っておくことは大切です。自宅に長く住み続けるための工夫、施設や自宅以外のさまざまな住まいの実際、安心して住み続けられる地域とはどのようなところなのか、皆さんの一人ひとり答えが違う問いに、具体的な事例をご紹介しながら、答えのヒントを見つけていきたいと思えます。

第 2 回 9 月 20 日 (木) 地域マネジメントにおけるマーケティング思考の可能性 渡邊 正樹 講師 (経営学科)

今やマーケティングとは、企業だけのものではありません。マーケティングというと、企業の商品開発や広告に関する話だと思っている方が多いかもしれません。確かに、一昔前まではそうでした。ところが近年、マーケティングが取り扱う領域は、徐々に拡大しつつあるのです。高齢化や過疎化といった、多くの地域で課題となっている問題に対しても、マーケティング固有の思考法が力を発揮しうることが明らかになっています。例えば、地域をより住みやすいものにするためには、その地域に関わる様々な立場の人達のニーズを把握しなければなりません。あるいは、地域に誇りを持つ住民を増やすためには、その地域が持っている固有の価値を、ヨソモノである他の地域の人達にも理解してもらう必要があるでしょう。この「様々な立場の人達のニーズを捉える」「他者に自らの価値を伝える」というのは、まさにマーケティングという学問が主題としてきたテーマなのです。本講義では、地域のマネジメントにおいて、このようなマーケティング思考が持つ可能性について、皆さんとともに考えていきます。

第 3 回 9 月 27 日 (木) 「2025 年問題」との付き合い方 西川 京子 准教授 (こども学科)

「2025 年問題」というと、少し先のことに感じられるかもしれませんが、しかし、大学や企業の社員研修を含む教育の世界は、2025 年に向けて今この時も着々と変わりつつあります。なぜなら、教育は、一人ひとりの自己実現、すなわち、どのような問題に直面しようとも、人々がそれぞれの持ち味を大事にしながら、その人なりに生き生きとより良い生活や社会を創り出していけるようにすることを最終的な目的として営まれているからです。2025 年には少子高齢化、グローバル化、情報化が急速に進み、今まで当たり前だった暮らし方や働き方が大きく変わります。そのような社会で、あなた自身や、将来あなたの仕事や遺伝子を継ぐ次世代の子ども達が、どのような資質を身につければより自分らしくより望ましい社会生活を送れるのでしょうか？本講座では、「2025 年問題」に向けて、皆さんが教育界や社会の動向を知って、それぞれの生き方、在り方を考える機会を提供します。

第 4 回 10 月 4 日 (木) スポーツと“Ikigai”-2025 年を受け入れる- 河野 洋 講師 (健康スポーツ科学学科)

来る 2025 年に向け、多くの分野が迫りくる問題に「抗う」ことを模索しています。スポーツ分野でも、医療費の増加や体力低下に抗う手段として様々なアプローチが展開されています。しかし、社会や人々の生き方の変化に抗うことばかりが、将来に求められるスポーツの姿なのでしょうか。一点着目すべきは、貧困の社会でも戦争の時代においても、人類の営みの中には常にスポーツが存在してきたことです。そこからは、スポーツが困難な状況や自身の生を「受け入れる」活動となってきたことが推察されます。

近年、社会や自己を受け入れる生き方のコンセプトとして、世界的に注目されている言葉があります。それが、“Ikigai” (生きがい) です。本講義では 2017 年に催されたスポーツ系学会での講演内容を引用し、スポーツにみられる“Anti”と“Ikigai”との言説を参照しながら、スポーツを通じて 2025 年の到来を受け入れることの意味を考えます。

第 5 回 10 月 11 日 (木) 人生 100 年時代を見据えた健康づくり 長野 扶佐美 准教授 (看護学科)

2025 年問題とは、「団塊の世代が 75 歳以上になることで起こると予測される様々な問題」を指しています。2025 年時点で、国民の 3 人に 1 人が 65 歳以上、さらに 5 人に 1 人が 75 歳以上になると予測されています。高齢者の方が増えれば、必然的に医療や介護のニーズは高まってきます。当然、高齢者の方々やそのご家族は、医療機関や介護施設、在宅など、医療や介護をめぐる状況はどうなっていくのだろうと不安が強くなっていきます。世界中、どこの国も体験したことのないような状況に、今から私たちは備えなければなりません。安心して老後が過ごせるよう、どのように自分自身の健康を維持するのか、最後まで自宅で住み続けるための地域づくりをするにはどうしたらよいのかを皆さんと一緒に考えてみたいと思えます。